

センバツへ県勢闘志

秋季東北高校野球 あす福島で開幕

第70回秋季東北地区高校野球大会が13日、福島県で開催する。大会成績は来春の選抜高校野球大会(センバツ)の出場校を決める際の判断材料となる。県勢は県大会を制した青森山田(第1代表)をはじめ、弘前東(第2代表)、八学光星(第3代表)が出場、センバツの東北代表枠3を目指し、強豪としての姿を削る。

青森山田は力のある投手平沼、堀田の1年生の左投手4人が勝ち試合をつく。右2枚が控える。充実してきた。今、東谷の2投手陣を県大会3割の年生コンビの後ろに、決打線がどれだけでも立て勝て弘前東に投げ勝たられるかが、試合の行方

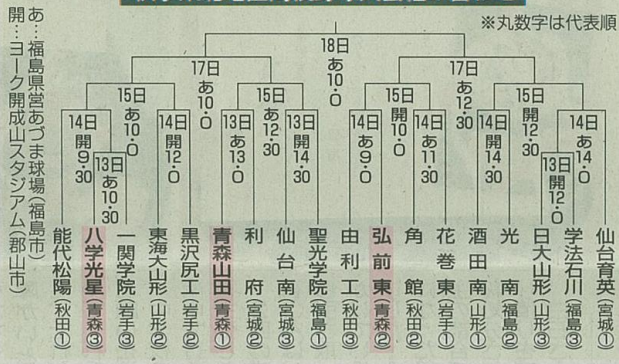
光星 3校で最高の打率



10年連続21回目の出場となる八学光星

13日の2回戦、初戦の相手の利府(宮城第2代)は長谷川を早めに攻略。番の右腕長谷川が中心となり、打線も好調さを手

秋季東北地区高校野球大会組み合わせ



と。投手陣が豊富な弘前東の主戦は1年生左腕の澤田。県大会準々決勝・弘前地区対決となった聖愛戦では完封勝ちを収めた。打線は準決勝で八学光星を破る一発など3試合連続本塁打を放った主砲松庭が軸となる。初戦は14日の2回戦で、初の東北切符を手にした由利工(秋田第3代表)と対戦。秋田県大会では、140+の速球を投げ込む主戦佐藤の巧みな投球で勝ち上がった。弘前東打線は全体の打率が2割5分と物足りず、一層の奮起が東北大会初勝利の鍵を握る。八学光星は打率が県勢3校で最高の3割2分8厘。投げては今春から投手陣を引っ張ってきた主戦澤田が軸となり、2年ぶりのセンバツ出場を狙う。県大会は8失策や決めきれない犠打など、攻守のミスが失点や残塁に結びついた。1回戦は一関学院(岩手第3代表)と開幕試合を戦う。岩手県大会で、甲子園春夏強8強の盛岡大付を破り、3位決定戦では23安打の猛攻で15回目は東北出場を決めた。八学光星は県大会で見つけた課題を克服し、巻き返しを図りたい。大会は福島県営あづま(福島市)、ヨーク開成山(郡山市)の2球場で実施。決勝は18日、福島県営あづま球場で行う。